東芝メディカルシステムズ、
超音波診断装置「Xario 200」販売開始
～コンパクトで機動性に優れたハイエンドクラス～
（2013/5/20）

東芝メディカルシステムズは、コンパクトで機動性に優れたハイエンドクラスの超音波診断装置 Xario™ 200（エクサリオ 200）を開発、5月24日から大阪で開催される日本超音波医学会第86回学術集会に展示するとともに、国内への販売を開始する。

●開発の背景

超音波診断装置は、リアルタイムに検査画像が得られ、被ばくの心配が無いことから、腹部臓器や循環器、産婦人科、運動器などの広い臨床分野で、ルーチン検査や精密検査の目的で幅広く使われている。特に近年、治療方針の決定から治療時のイメージングガイド、その後の経過観察を一貫してフォローできることから、検査室はもとより外来や処置室、病棟などでの使用機会も増えており、小さな病変も見逃すことの無い高性能な装置を、院内各所へ手軽に持ち運べ、誰にでも簡単に操作できることへのニーズが高まっている。

Xarioは2004年の発売以来、eXellence & Advanced Routineの名にふさわしいコンパクトで高性能な装置として、シリーズ合計で20、000台以上を販売。

今回発売するXario 200は、そのXarioの基本コンセプトを受け継ぎながら、よりいっそうの小型化と、高画質化を実現。また従来からの東芝独自のエルゴノミクスコンセプト・iStyle™ をさらに進化させ、超音波装置を使い慣れていない技師・医師でも簡単に操作できることを目指した。

＜Xario 200の主な特長＞

●小型軽量で取り回しのしやすいパッケージング
Xario 200は、同等クラスの同社従来装置・Xarioと比較して占有面積で約84%、重さで約55%と、大幅な小型軽量化を実現している。
プリンタやビデオレコーダー、オプションプローブや心電ケーブルなど、必要な周辺機器やアクセサリを収納するバスケットを装着可能で、移動の際に便利な大型のグリップハンドルと大型の4輪キャスターを備えており、病院内を軽快に移動して検査が開始できる。
消費電力はXarioと比較して約半分に抑えられており、よりいっそうの省エネルギーを実現している。

●使いやすさを追求したiStyleコンセプト同等クラスでは世界初の19インチLCDモニタを採用。フレキシブルな支持アームと、前面の大型グリップハンドルで、検査者はもちろん、補助者や被検者にも見やすい位置に簡単に設定できる。

操作パネルは左右にスイング可能。高さは最低70cmまで下げられるので、検査者はモニタを見上げることなく、楽な姿勢で検査ができる。操作パネルのボタン配置を自由に変えられるので、好みに合わせた使いやすいパネルにカスタマイズが可能である。

小型化されたプローブコネクタは、大型の着脱レバーと照明ランプで、暗い検査室内でも容易に着脱できる。

Bモード画質やスペクトラムドプラ波形をワンタッチで最適化するQuick Scanや、患者様の体形や検査部位に応じて多くのパラメーターをボタンひとつで最適化するQuick Startなどの機能により、簡単に最適の画質を得ることができる。

●高い基本性能・豊富なプローブラインナップ

Xario 200は、小型軽量化を実現しながらも、Aplio™ シリーズ譲りの高い基本性能を継承し、新開発の豊富なプローブラインナップにより腹部、表在臓器、血管、循環器、産婦人科、泌尿器科、運動器、関節リウマチ、透析など、幅広い臨床分野をカバーする。境界や構造物の視認性を向上させるPrecision Imagingや、コントラスト分解能を高めるApliPure™ 、深部まで高い分解能を維持Diferential THIなどのイメージング技術のほか、組織の硬さを映像化するElastographyなど、多彩な機能を搭載可能で、確かな診断を強力にサポートする。

●Xario 200の主な仕様

走査方法：セクタ、リニア、コンベックス
視野深度：最大40cm
観察モニタ：19インチLCD
電源定格：AC 100V±10% 最大800VA
外形寸法：473mm（W）× 1,305～1,535mm(H) × 785mm(D)
重量：75kg

東芝（Xario　200）